

北海道大学ウェビナー

「ポストコロナ時代の東アジア」②

コロナ時代にみる 東アジアの 信仰の姿

「ポストコロナ時代の東アジアとメディア」をテーマにしたウェビナーの第二弾は、新型コロナウイルスの感染拡大で浮き彫りになる宗教や民間信仰の諸相について議論します。

日本では疫病除けに起源をもつ祭礼が中止・延期となる一方、「アマビエ」など疫病除けと関わる妖怪に注目が集まります。台湾では崇りを及ぼす「鬼」が人々を救う「神」になる事例が見られますが、日本植民地時代には人々を疫病から守るとされる「神」になった日本人が存在しました。韓国では宗教団体「新天地」発のクラスターが社会を揺るがせ、ソウル梨泰院のクラブから始まったクラスターは宗教界の性的マイノリティーに対する排除の構造を浮き彫りにしました。新型コロナ対策における市民社会の力を宗教団体の活動からみる香港の事例も報告されます。

ウェビナーはオンラインで行い、YOUTUBEで配信します。どなたでも視聴が可能です。ぜひご視聴ください。

日時

2020年6月26日(金)

午後4時 - 6時

形態

オンラインによるウェビナー (webinar)

参加方法 : YOUTUBEによる視聴

<https://youtu.be/WYDuTBpk2uE>

**報告者 &
報告地域**

天田顕徳__日本
(北海道大学)

三尾裕子__台湾
(慶応義塾大学)

李賢京____韓国
(東海大学)

伍嘉誠____香港
(北海道大学)

コメント

鈴木正宗
(慶応義塾大学名誉教授)

井上順孝
(國學院大学名誉教授)

コーディネーター

藤野陽平
(北海道大学)

主催 北海道大学大学院
メディア・コミュニケーション研究院附属
東アジアメディア研究センター
<https://ceams.imc.hokudai.ac.jp/>